

發行所
小田原市役所
小田原市幸1の138
編集兼發行人
小泉重雄
印刷人
石橋貞吉
定價一部三圓

健全財政化の新年度予算編成方針

昭和二十七年当初予算、その他の三十七案件を審議する市議会臨時会（いわゆる予算市会）は三月十

日午前十時招集され、市議場において議員三十五名、説明のため出席を求められた市長以下二十三名が出席して開会されたが、席上鈴木市長は次のように来年度予算の編成方針について説明した……………

昭和二十七年度を迎ふるに當りまして、私の所懐と予算編成の方針とを申述べて、各位の御賛同と御協力とを得たいと存じます。

二百六十八都市のうち、一割以上の赤字都市が百十三都市でありましたところ、さらにその後に至りまして、三月八日地方財政委員会から内閣及び歳入は国及び県の補助金

講和条約の発効も目睫に迫り、間もなく日本が独立国として国際社会に復帰できることは、まことに御同慶に堪えぬところであります。しかし、地方財政白書ともいうべき報告書によれば、百八十都市が二十六年度において、赤字を余儀なくされる状態に置かれてゐるものであります。即ち依らなければならぬのであります。このこと自体は地方分権を常に叫ぶ私共といたしましては、まことに焦慮を禁じ得ざるものがあり、地方税法

の道の行手に、容易ならぬ困難が積み重つてゐることを確認し、国の基盤としての地方自治体をいかにすれば健全に育成し得るか、またいかにすれ

この数字によれば、戦後の七割の都市が赤字財政になるのであります。しかも他の三割の都市のうちには地方自治確立の重大使命を遂行してゆかなければならぬ

は地城住民の生活を安定し向上せしめうるか、われわれは共に考え、共に努力すべき時に直面してゐるのを痛感するのであります。

有利な事情の存しない限り、予算技術上、表面に赤字の表れていないものであつて、しかも実質上はなお相当数の赤字都市があるのではないかと思はねばならぬのであります。このような財政の運営がいかに至難なものであるか。これについてわれわれは深い理解と決意とをもつて当らなければなら

しかるに地方自治体の日の実状であります。

現状はどうでありましようか。たまたま先般本市の財政が赤字であると指摘を地方財政委員会から受けたということに、その全般問題につ

本 市の場合は、先般財政の中心地たる本市の立地条件はおのずから周辺地域の政治、経済、文化

これに加うるに、西湘

ります。

より、各位並びに市民の方々に御心配をかけましたことはまことに遺憾であるとして存じて居りますが、本市が地方財政委員会から指示を受けた当りの発表によれば、全国税制調査会の調査結果によれば、二十六年の予算総額が四億四千九百五十万円に達したと報告されています。このことは本市将来の発展を思えばむしろ祝福すべきことであるといえ

ては避けますが、要するに中せしめ、そのためにも都市的整備を余儀なくされておられるのであります。

市議者の意見の中には、市債の発行を抑制して、市庫の増大を図るべきとするものも少なくありません。これは、市の財政状況をよく見ると、決して無理な話ではないと思ふのでありますが、市債の発行は、市の信用を損ない、市民の負担を増加させることになるので、私は、市債の発行には慎重であるべきであると主張いたします。

以上、私の演説を終ります。ご清聴ありがとうございました。

それはまた同時に財政上
少なからぬ負担となり、
發展途上にある現在、財
政運営上極めて大きな悩
みがあると云わざるを得
ないのでありますして、予
算編成に當つての悩みも
常にこの点に歸着するこ
とを申上げなくてはなら
ぬのであります。

本年度の予算編成について、また私はますこれらの種々な問題の上に立つて、健全でありしかもあくまでも積極性を失わざる方針を堅持したいと考えたのであります。

それには先ず建設的な事業に対し充分な検討を

ものでありまして、不急なものには後にゆすり、緊急を要するものを重点的に取りあげ、それによつて市発展の基礎を確立することが先決であります。しかも一方これまでの赤字をいかに縮少するかにしても充分な考慮をめぐらさなければならぬの

開しましては政府当局並びに地方財政委員会の配慮により、特別平衡交付金一、五八八万円の配付を見たことは、各位の御承知の通りであります。二十六年度歳入欠陥の主因が公共事業の起債減額によるものでありますのでその起債の増額その他

政府当局の適當な措置に對し、目下最善の要請をなしつゝありますので、二十六年年度歳入欠陥につきましては、最初憂慮いたしましたよりも、少くとも良い結果を招來するのではないかと多大の期待をかけているのであります。

ことといひ、当初予算にはこれを削除したわけでありました。したがつて全般的にみるときは、特に大きな新規事業はないのでありますが、一応急速を要するものは能う限りこれを取りあげることゝ努めたのであります。

と御同慶に堪えぬのであります。学校給食については、現在非常な危機に立つておりますが、これに継続実施につき、政府に對する要望を強く押し進めたいと思うのであります。また別に懸案でありました小田原学園廃校に伴う措置としてこれを

に直ちに關連ある内政的な面におきましては、二十六年度度県下八市にすぎがけて実施いたした國民健康保險は市民の深き理解と医療担当者並びに關係各位の非常なる御協力によつて、全国的に稀に見る優秀な成績を

でに全員協議會において御諒解を得るところであります、これまたいよいよ予算化して契約実施をいたすこととなりました。今後これの利用方法については充分検討して有効に使用したいと考えるのであります。

挙げつゝ第一年度を終り市民の医療生活に多大の貢献をなしたと信ずるのでありますが、本年度はさらに一段と強固なものにしてゆきたいと考える次第であります。

社 会教育面におきましては、民主団体の自主的活動を期待してこれが助成に一段と力を入れ、成人学校もきわめて好評であるのにかんがみ継続することにいたしました。

教 育の面においては、第三中学校、大窪小学校

体 育につきましては、

の建設、並びに城東高等学校の整備が着々進捗しつゝあり、更に第三中学校の第二期工事及び山王小学校の増築については速かにその実現を期したいと思つております。また各方面からの要望熾烈でありました、城東高校工業科設置の問題は、未

本市が最近とみに目覚まし躍進振りを示しております折柄、一層これを推進すると共に、国体招致に関連いたしました総合グラウンドの建設も促進したいと思うのであります。

産業 業経済の面におい

た予算化の段階にまでは達し、
立ち至つてはおりません。良事業並びに農道改修の
が、一応これを設置する問題に關しましては、年
目標もたち、さらに本年次計画をもつて遂行する
に至り特に深刻をさわめ考えであります。これ
で参りました高校進学難は補助対象になる事業
の問題につきましては、も多いので、認証をまつ
城内高等学校の定員増加で逐次進めてゆきたいと
を講すべく、県当局と折思ふのであります。他面
衝を重ねていましたところ、農業改良普及事業の助長

出来得る限り力を入れて
ゆきたいと思ひます。

水産に關しましては、
所謂漁業改革が一段落し
た今日新しい組織による
水産業の円滑なる振興を
図りたいと思ひます。水
産と最も關連の深い県営
漁港の構築は可分にも多

客の給費を必要とした。まずの、国の財政事情から申しまして、当初の五ヶ年計画の実現は困難な状態にあります、これに對しましては、水産業のみならず、本市の産業経済その他あらゆる面に貢献するところ多大なことを思い、県当局に

協力して事業の遂行に努力しつつあります。目下の処は外港の西側防波堤を構築中でありますが、二十七年度においてはさらに東側防波堤の構築に着手し得ると考えられるのであります。しかし、これも国の認証が確定の時期に至つておりません。

に「至らず、認証を得次第に改めて予算化する考えであります」。

中小企業の振興を計るため、従来の県の信用保証協会とは別個に、市独自の信用保証による金融対策を考慮いたし、その他商店街の美化等商業振興については商工会議所、商店街連盟とも連携を保つて努力してゆきたいと存じます。

目下着々その建設が急がれておりますことは喜びに堪えぬところで、操業の日の一日も早からんことを期待するものであります。

水浴場等に対してもさらに整備することとしたしております。また年中行事も市民のレクリエーションを加味して、能う限り多彩に繰りひろげたいと存じます。

ては、二十六年度において權威者を招き久野古墳につき調査研究いたしましたところ、予想以上に貴重な資料が得られましたので、さらにこの保存研究並びにその紹介の方法等も考慮している次第であります。また懸案の小田急線螢田駅新設も

厚 生關係においては、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法の所

計神祖三治の遺月に乃至を期すること勿論でありますが、社会政策の一端として、授産施設確立のため、現在文武館内にある授産場を他に独立新設し、文武館は本来の使命に向つて一段と活用を強化することにしたたいと考えます。失業対策事

つき県並びに労働省とも充分連絡をとり、従来の市一本立ての行き方を變え、今回は県の数十人かの枠とあわせて行うこととし、人員の確保に努めたいと思つております。公営住宅については、先般の火災罹災者の住宅として、さきに国庫補助住

別に県費補助の引揚者住宅の承認を受けたのでありますが、さらに新年度の国庫補助住宅四十八戸については認証を得次第に先頃買収することに決定いたしました敷地に建設いたしますと存じます。

このほか、県営住宅誘

現にも努力しているわけ
でもあります。遺家族等今
次戦争犠牲者の方々の援
護措置に關しましては、
目下國家において保障の
道が考えられております
ので、それに従つて遺族
会とも充分連絡しつゝ遺
漏なきを期したいと思ひ

対して、更生の道を開くと共に、児童福祉施設としての虚弱児童対策に関し、県当局と折衝の上、何等かの措置を講じたいと考えて居ります。

かに本年も冬期においてすでに発生を見つゝある現状にかんがみ一層これが予防に努力を傾注してゆく心算であります。

また結核予防法も施行せられた今日、この面についても充分の施策を講ずる考であり、さらに環

最も大きな問題として考えられますが、区画整理委員会並びに地元関係者各位の涙ぐましい御協力によつて、一応二十六年度にある程度の整備が出来、大災跡復興としては稀に見る進捗ぶりを示し、関係当局からも賞讃の言葉を得ていることをこの

のであります。本年度はさらにこれが完成に邁進したいと考えますが、その完成の曉には附近一帯の面目が一新するものと期待がかけられるのであります。

事は前年度に引き続き行
い、本年は大蓮寺川へ流
下させるよう、その完成
を期しております。道路
の整備については最も緊
急を要するもの又は継続
的なものにつき重点的に
とりあげ、また用悪水路
に関する事業についても
出来るだけ考慮したいと

策事業と関連せしめ、街路の維持修繕の万全を期したいと思つております。漁港、総合グラウンドの大事業は前述の通り補助額決定をまつて施行する所存であります。

に配水管及び計量器取付等
等を鋭意進行して参りまし
したが、送水管については
用地交渉のため工事計
画が延引し、これに対し
ては現在極力地元関係者
の御諒解を得ることに尽
力しているわけでありま
す。

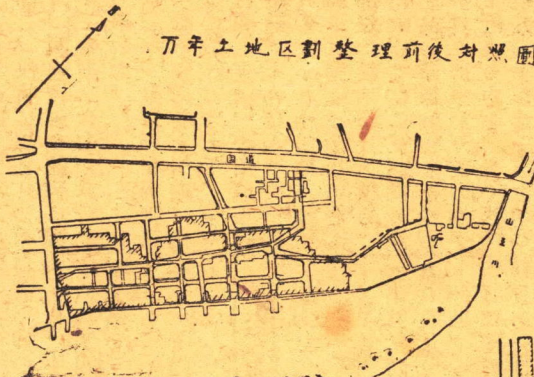
〔以下二頁〕

〔以下二頁〕

万年町大火災のその後

昨年十一月二十八日未明、寄せられた同僚が大きい一瞬にして灰燼に帰した実を結ぶことでありました。復興状況についてお知らせします。

焼跡の復興には都市計画事業と区画整理事業を併用して行なう必要があり、この両面の補助申請を行なうことになりました。この補助事業に要する経費は総計一千七百六十三万五千円、内国庫補助見込額四百二十九万二千円、県費補助見込額三百九十



万年土地区劃整理前後対照圖

失業対策事業の効果

只今本市に於いて行なつております失業対策事業は、国が社会労働施設の整備、側溝、下水路の浚渫、塵芥の収集処理等の事業をなし、市民生活の向上改善に資すべく努力を致して来たものであります。計画致して居ります。

第二回小田原地区畜産共進会の開催

第二回小田原地区畜産共進会は、去る二月二十二日、二十三日の両日にわたって城址公園で開催され、総出品数一二九点に及び、盛況裡に終了いたしました。

馬		豚		鶏		山羊		牛	
豊川村	相沼吉兵衛	片浦村	広石伊三郎	小田原市	小松政之助	小田原市	米山要助	小田原市	平野亀之助
下中村	梅津栄吉	小田原市	府川春松	小田原市	下曾我村	穂坂寅吉	小田原市	田代吉五郎	小田原市
下中村	峯尾多平	小田原市	府川春松	小田原市	下曾我村	穂坂寅吉	小田原市	田代吉五郎	小田原市
下中村	峯尾多平	小田原市	府川春松	小田原市	下曾我村	穂坂寅吉	小田原市	田代吉五郎	小田原市

野鼠駆除の「フラトル」
本市では野鼠による農作物被害の絶滅を期し、去る三月十一日農地帯一円に「フラトル」を使用し、野鼠駆除に一斉に施行いたしました。

四月の温床管理
本年は育苗期に雨が多く、一般に苗が軟弱に育つてゐるので、これが植傷みの原因となる。夜間は被覆物を少なくし、昼間は被覆物を開け、或は灌水を控え、苗の硬化を図ることが肝要である。

春の大掃除始まる
健康は清潔な環境から
今年もまた四月二十二日の努力も無駄に終るようから七日間、全国清掃週を結果といたします。

市の通常予算は どうして成立するか

市の通常予算は、最重要議案として、毎年三月三十一日まで、市議会に提出される。これは、市議会の承認を経て、市長の署名捺印を経て、市執行部に送られる。この予算は、市の歳入と歳出のバランスをとり、市の運営に必要とする。

野鼠駆除の「フラトル」
本市では野鼠による農作物被害の絶滅を期し、去る三月十一日農地帯一円に「フラトル」を使用し、野鼠駆除に一斉に施行いたしました。

四月の温床管理
本年は育苗期に雨が多く、一般に苗が軟弱に育つてゐるので、これが植傷みの原因となる。夜間は被覆物を少なくし、昼間は被覆物を開け、或は灌水を控え、苗の硬化を図ることが肝要である。

春の大掃除始まる
健康は清潔な環境から
今年もまた四月二十二日の努力も無駄に終るようから七日間、全国清掃週を結果といたします。

食中毒に注意
折詰やべんとなど、寒い冬の間にちまちま食べていた細菌たちは春風の訪れとともにそれぞれ活動をはじめます。又一方、人々は春風に誘われて、ピクニックやお花見、あるいは団体旅行、修学旅行などに行き、外で食事をすることが多くなり、行なう機会が多くなり、折詰やべんとなど、寒い冬の間にちまちま食べていた細菌たちは春風の訪れとともにそれぞれ活動をはじめます。



